

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">薬理学 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">薬学部薬学 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">小山 豊 綿野智一</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">神経系、循環器系および呼吸器系に作用する薬物</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>2 年次前期の「基礎薬理学」では、体内に入った薬物の運命とその作用発現までの機構について、薬物一般に共通する性質を総論しました。薬理学科目では以降、個々の薬物の性質について学習して行きます。2 年次後期「薬理学 A」では、神経系、循環器系、呼吸器系に作用する薬物を中心に、それらの作用点、薬理作用、臨床応用などに関する基本的な知識の習得を目指します。</p> <p style="text-align: right;">(日本薬学会モデルコアカリキュラム C13(2)「薬の効き方 I」に対応)</p>		
<p>評価方法</p> <p>授業への出席数、および期末時に課す試験の成績を評価の対象とします。また随時小テストを行い、各受講生の目標への到達度をフィードバックして行く予定です。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">薬理学 - 医薬品の作用 -</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">竹内 幸一 福井 裕行 栗原 順一 編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">廣川書店</p>
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラー図解 これならわかる薬理学 ・New 薬理学 	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">H. Lullmann 他 田中千賀子、加藤隆一</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">メディカルサイエンス・インターナショナル社 南江堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系の構造と働き : 脳の機能の低下は、どのような病気を引き起こすのか？ 2. 中枢神経系に作用する薬 (1) : 全身麻酔薬および睡眠薬の薬理作用、作用機構および副作用。 3. 中枢神経系に作用する薬 (2) : 鎮痛薬の薬理作用、作用機構および副作用。 4. 中枢神経系に作用する薬 (3) : 中枢神経疾患(てんかん、認知症など)治療薬の薬理作用、作用機構および副作用。 5. 中枢神経系に作用する薬 (4) : 精神疾患(統合失調症、うつ病など)治療薬の薬理作用、作用機構および副作用。 6. 自律神経系に作用する薬 (1) : 交感神経系に作用する薬物の薬理作用、作用機構および副作用。 7. 自律神経系に作用する薬 (2) : 副交感神経系に作用する薬物の薬理作用、作用機構および副作用。 8. 知覚神経系、・運動神経系に作用する薬 : 局所麻酔薬、筋弛緩薬の薬理作用、作用機構および副作用。 9. 循環器系の構造と働き : 心臓、腎臓および血管の機能の低下は、どのような病気を引き起こすのか？ 10. 心臓に作用する薬 (1) : 抗不整脈薬および心不全治療薬の薬理作用、作用機構および副作用。 11. 心臓に作用する薬 (2) : 虚血性心疾患治療薬の薬理作用、作用機構および副作用。 12. 血圧の調節に用いる薬 (1) : 降圧利尿薬、ACE 阻害薬、AT II 拮抗薬の薬理作用、作用機構および副作用。 13. 血圧の調節に用いる薬 (2) : 血管弛緩薬、Ca 拮抗薬、昇圧薬などの薬理作用、作用機構および副作用。 14. 呼吸器系に作用する薬 (1) : 呼吸興奮薬、咳鎮・去痰薬などの薬理作用、作用機構および副作用。 15. 呼吸器系に作用する薬 (2) : 気管支喘息治療薬の薬理作用、作用機構および副作用。 		